

冬季特別企画 |

2022 12/24 | 土 | - 2023 1/15 | 日 |

休館日 = 12/29、30、31、1/1、10

# はかる？!

これくらいってどれくらい

## ■ みんなであそぶプログラム

会期中毎日  
[10:00 - 16:00 (11:30 - 12:30 はお休み)]

どのあそびになるか「運をはかる」おみくじで、あそびを決めます。身の回りにあるいろんなものをはかったり、自分の「はかり」を見つけたら、たくさんのおそびのカードで遊びます。

「おなじ重さは?」「じぶん時計」  
「自分の単位」「せいくらべ」  
「きもちメーター」「音あわせ」など

## ■ あつまるあそぶプログラム

土日祝 [14:00 - 15:00]  
30分前受付

「ハカリバトル」  
はかることをテーマに  
チームで協力するあそびです。

◎詳しくは、館内の当日案内をご覧ください。プログラムは予告なく変更することがあります。



わたしたちは、さまざまなものを「はかる」ことで、何かを決めたり、だれかと何かを共有したりしています。「大きさ」「重さ」「時間」「距離」「気温」など、道具をつかってピッタリはかることができるものもあれば、「気持ち」「きれいさ」「触り心地」などピッタリはかれないものもあります。それでも私たちは自分なりに基準を決めたり、比べたりして「はかる」ことをしています。はかるための道具を探してみると思っている以上にいろいろな道具が見つかります。定規、秤、タイマー、温度計、メスシリンダー、分度器、小さじ大さじ、他にもたくさんあります。カタチがあるものもないもの、見えるものも見えないもの、「はかる」ことでそれがどんなものかを知ることができます。でも、同じものを違う「はかり」ではかってみたら、見つかること考えることが変わってくるかもしれません。いろいろな「はかりかた」を試して、いろんなものを「はかる」ことで、いつも身の回りにあるものの新しい一面を遊びながら見つけてみてください。

# はかる？!

これくらいってどれくらい

2022 12/24 | 土 | - 2023 1/15 | 日 |

愛知県児童総合センター (愛・地球博記念公園内)

開催時間 = 10:00 - 16:00 (開館時間は 9:00 - 17:00)

休館日 = 12/29、30、31、1/1、10

入場料 = 中学生以下無料、その他 300円

主催 = 愛知県児童総合センター (公益財団法人 愛知公園協会)

## 愛知県児童総合センター



〒480-1342  
愛知県長久手市茨ヶ廻間乙 1533-1  
TEL 0561-63-1110  
E-mail info@acc-aichi.org  
https://www.acc-aichi.org/

開館時間 = 9:00 - 17:00  
入場料 = 中学生以下無料、その他 300円

12月の休館日 = 6、13、20、29、30、31日  
1月の休館日 = 1、10、17、24、31日  
2月の休館日 = 7、14、21、28日  
3月の休館日 = 7、14、22日

公共交通 地下鉄東山線「藤が丘」、愛知環状鉄道「八草」から 車で… 東名高速・日進JCT 経由名古屋瀬戸道路長久手ICから 機関で… リニモ「愛・地球博記念公園」駅下車 足助方面すぐ (愛・地球博記念公園 北駐車場利用)

子どもとおとな、ドキドキ発見!

# ACC

Aichi Children's Center

# レター

News Letter vol.

2022-2023 冬 44

冬季特別企画

「はかる?」  
-これくらいってどれくらい-

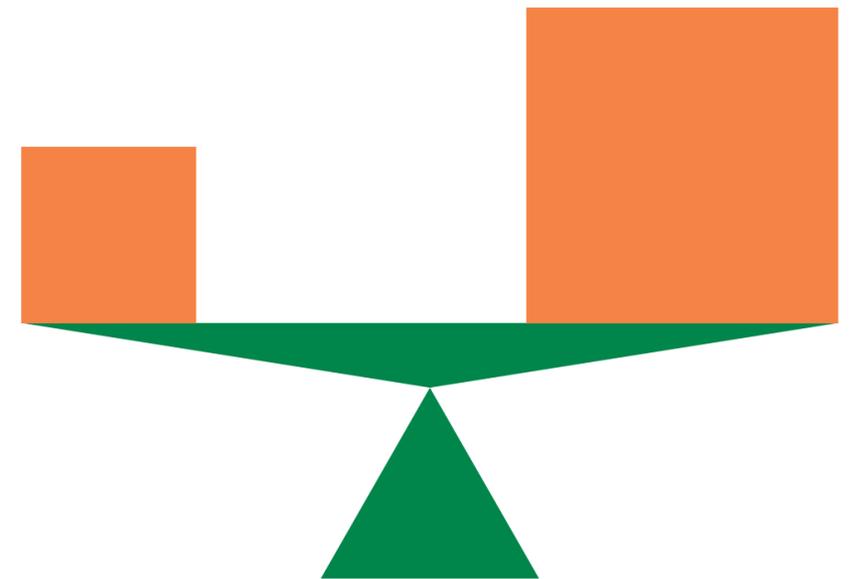
特集 |

他団体との連携事業  
「狸々」と一緒に「大発生」させる。

特集 |

夏季特別企画  
「あなた・わたし・みんな」

子育てのおはなし 第44話  
募集とお知らせ





## 他団体との連携事業 「猩々」を一緒に「大発生」させる。

文：国際芸術祭あいち2022ラーニング・コーディネーター 近藤令子さん

国際芸術祭「あいち2022」は、「STILL ALIVE」というテーマのもと、国内外から100組のアーティストが参加し、現代美術展、パフォーマンス、ラーニングによって、最先端の芸術を「あいち」から発信しました。ラーニングでは、アートを通じて地域や世界と出会い、一様ではない世界の見方を獲得すべく、芸術祭を訪れた人たちがコミュニティの一員として参加する喜びを感じられるよう、様々なプログラムを実施してきました。

愛知の歴史や文化、生活についてアーティストが公募の参加者と共に学ぶプログラム「愛知と世界を知るためのリサーチ」の一つに「猩々大発生」があります。猩々とは、愛知県南部の一地域のお祭りに登場する大人形で、このプログラムを企画したラーニング・キュレーターでアーティストの山本高之の地元のお祭りにも登場します。張り子の頭部、竹でできた胴体部分に、布団を利用した衣裳をまとい、大人がかぶると全高約3mにもなります。お祭りで練り歩いたり、はやし立てる子どもを棒を持って追いかけて回したりします。「あいち2022」の会場にたくさんの猩々が登場することで、芸術祭を地元のお祭りと同様に親しみを持ったものとして感じてもらうことを目指したプログラムです。愛知県児童総合センター（以下、ACC）共催の元、県内の5つの児童館と「猩々コレクティブメンバー」と共に活動してきました。

今回「猩々」を「大発生」させるにはどうしたらいいのかという相談を抵抗なく受け入れてもらえ、さらには活動を一緒に始めることができたのは、ACCが開館当初からアートを意識的に取り入れたあそびのプログラムを実施したり、アーティストによるプログラムやあそびの共同開発をしてきたという蓄積があるからです。猩々の制作手順を検討する際には、リサーチで得た情報から、ACCにある資材を使って試作をしたり、ノウハウを活用したりすることで、大人も子どもも自らの力で制作できる方法を編み出しました。何かを実現しようとしたときに、すぐ行動にうつすことができる場所は多くありません。ACCは、道具や材料だけでなく、技術や経験もそろっている、大変貴重な環境です。また、本プログラムをきっかけに「大猩々発生」というプログラムが生まれており、あそびから新たなあそびが生まれるようにプログラムが展開していることも注目すべき点です。ACCが今後も様々な団体との連携事業を推進していくことに大きな可能性を感じます。



国際芸術祭「あいち2022」展示風景  
《猩々大発生》2022  
撮影：ToLoLo studio

夏季特別企画

# あなた・わたし・みんな

わたしってなんだろう。

わたしが知っている「わたし」とあなたが知っている「わたし」はちょっと違うかもしれません。

わたしとあなたが集まって、みんなで遊んでたくさんの「わたし」に出会える、そんなあそびを用意しました。

## ● みんなであそぶプログラム



### たくさんのあなた

館内のあちこちをめぐり、いろいろなあそびをすることでたくさんのあなたに出会えるあそびです。



### ちいさいわたし

木をのこぎりで切ってちいさい「わたし」をつくります。

## ● あつまるあそぶプログラム



### 大猩々発生

「猩々大発生」をきっかけに自主企画として、猩々の顔を巨大にして約3カ月にわたり子どもたちと一緒に制作し、あいち2022にて展示しました。現在は愛知県児童総合センターで展示しています。

## ● 特別プログラム



### 山本高之さんの「スプーンを曲げよう」

アーティストの山本高之さんと一緒にスプーンを曲げます。曲げる様子を撮影し館内で上映しました。



令和4年度夏季特別企画として実施しました。

## 子育てのおはなし

臨床心理士  
後藤 かをり

### 第44話

## With coronaの時代 — 直接的な体験

## 募集と お知らせ

### お父さん応援プログラム 「アナログカフェ」

毎月第3日曜日だけオープンする「アナログカフェ」は、お父さんと子どもがボードゲームやカードゲームなど、アナログなあそびを楽しむことができる空間です。その間、お母さんはのんびり館内で過ごしてください。引き続きコロナ感染対策を行いながら毎月オープンします。

日時：毎月第3日曜日 13:30～15:30 随時参加  
場所：2階「大ホール」  
対象：小学生とその父親



コロナ禍と言われるようになって、早2年半。私がよく携わる幼児期の相談でも、3歳近くまではほとんど家族とだけ接してきたと言われる親御さんがたくさんおられます。そのことが子どもたちのこれからの成長にどのような影響があるのか、今のところよくわかっていません。人は可塑性の高い生き物です。きっとこれからの生活でリカバリーをしていってくれるものと思っています。

ところで、これからの生活というのはどういうものになっていくのでしょうか？ With coronaと言われる生活はどんなものになっていくのでしょうか？

これまで、人でもモノでも直接触れ合うことの大事さが強調されてきました。人の「五感」を育てるのに直接的な体験が大きな役割を果たしています。人との関係を育てるのにも、視

覚、聴覚とともに、肌のふれあい、人の醸し出す雰囲気や視線、しぐさなどを感知することが大きな意味を持っています。これらはどのように変わっていくのでしょうか？

これまで、人にかかわるメディアの発達に大きな転換点をもたらした時代があります。言葉の使用、文字の使用、印刷技術、映像技術、もちろん現代のIT技術、仮想現実・・・。

それぞれの時代の転換点で、人はこれまでとこれからの違いに危惧したり期待をしたりしてきました。

今の技術についていけない私としては、新しい技術を使いこなすのに、やっぱり直接的な体感の裏打ちがあってほしいなと思っています。おそらく過渡期になる今だからこそ、直接的な体験、人との触れ合い、感じ合いを大切に考えていきたいと思っています。

### 移動児童館・ゆめたま号

児童総合センターのあそびを「ゆめたま号」に乗せて児童館へ運び、現地のスタッフも加わって地域の子どもと大人と一緒に遊べるプログラムです。あそびをとおして、たくさんのお会いを楽しみにしています。

実施機関：  
12/23(金) 飛鳥村／飛鳥村児童館  
1/29(日) 東海市／子育て総合支援センター  
2/26(日) 日進市／  
にしん子育て総合支援センター  
3/4(土) 知立市／花山児童センター  
3/11(土) 稲沢市／平和さくら児童館

詳細については、実施機関にお問い合わせください



お父さんと運動会



せんのとりで



ゆめたま号

### トコトコプログラム

「大人がたのしいと子どもはうれしい」を言葉に、小さな子どもとお母さんやお父さんが「一緒に」楽しむプログラムです。見る、触るなどの感覚的なあそびを中心に、いろいろなあそびを親子で体験します。

開催日：  
12/7(水)、12/14(水)、1/11(水)、  
1/18(水)、1/25(水)  
2/1(水)、2/8(水)、2/15(水)、2/22(水)  
対象：1歳から3歳の未就園の子どもとその保護者  
定員：10組程度

各回のプログラムの内容・時間受付はHPをご確認ください。また、LINEでもお知らせを配信しています。



公式LINEアカウント



布であそび



音であそび

※プログラムは予告なく変更・中止する場合があります。詳しくはHPをご覧ください。